発行所
広島市出汐町
広島皆実高校内
皆実有朋会
印刷所
広島市八丁堀128
株式会社有文社印刷所

皆實有朋

皆実有朋は会員相互のものである

古い人の心の結びに
新しい人の熱情をもって
希望に燃えて強く正し
く美しく生きる為に
皆んなでくんで行こう

五五周年記念 音楽会盛大に行われる

母校創立五十五周年記念音楽会は菊花薫る十一月四日快晴に恵まれ広島市公会堂に於て盛大に開催された。

大熊理事長挨拶

郷かしき三十二年は国運別県、日ソ国交回復等と国際的にもほのぼのと明るい希望の年でございます会員の皆様如何御過しでございましょうか。日頃はお忙しい中を会運営のため御協力頂き、わけても昨秋母校創立五十五周年記念音楽会開催に当りましては並々ならぬ御盡力を頂きまして誠に有難うございました。何分にも大きな事業でございましたので不馴れの事でございましたのに御陰様で予期以上の盛会で会員の皆様にも非常に満足して頂き社会的にも前目を飾った次第でございます。

花柳八寿英（廿五期）、角梨枝子（卅九期）、大洪綾子（廿五期）、小鷹智洋子（四十五期）、寺西ユリ子（四三期）諸姉の方々には心からなる御出演を頂き特に二梁様方様には遠路より御参加下さいまして誠に有難うございました。これに月丘様御姉妹が御参加下さいましたが、色々スケジュールを組んで見てもどうにもならないと御両人とも申訳ないと非常に残念に思って居られました。私共と致しましても心もとなき限りでございました。

顧みますと明治卅四年三月其の名もなつかしき広島県立広島高等女学校として下中町に弧々の声をあげましてより創業卒業生を出す事四十六回踏かしき校歴を誇って居た母校は、原爆の歴史的一閃により惜しくも焼失し、被服廠跡に移され、終戦後新教育法により高等学校編成、地区制等とめまぐるしき改革により皆実高等学校が誕生したのであります。有朋会も原子砂漠の中より漸く起ち上り、廿九年五月には会員多数の総意により母校ともゆかりの深い皆実高校を母校とし、其の同窓会と合併し其の名も皆実有朋会と改め男子の会員も交えた強力な同窓会となり、力強く再出発したのでございます。昔を偲び今を思い ます時実に感慨無量のものがございます迂余曲折の苦難を辿りつつもこの度はからずも皆実高校に転任を命ぜられて、光輝ある皆実有朋会の皆様と御縁を結ぶことになりましたことは光栄至極であります。日本の敗戦によって我国の学制も大きく変り、明治以来の中学校女学校も終止符が打たれて伝統をほこる広島第一県女も昭和二十三年三月を以て有朋高校と変り、ついで昭和

に五十五周年を迎え、盛大な記念音楽会が私ども同窓会で開催出来ましたことは誠に嬉しい極でございました。私はただ泣けて泣けてたまりませんでした。皆様もきっと御同感でおわした事と存じます。今後七十周年、百周年とより盛大な行事が持たれます事を今より念願致して居ります。此の大会に当り、大原とし子様（知事夫人九期）には花束を、岩沢美都子様（参議員岩沢忠恭夫人九期）、永野節子様（参議員永野護夫人九期）、広島支部より多額の御出資頂き錦上の花を御添え頂きました事をここに有難く御礼申上ます。

記念音楽会寄贈内訳

永野節子（九期）　一〇、〇〇〇
岩沢美都子（九期）　一〇、〇〇〇
広島支部　五、〇〇〇
広島女学院院長　一、〇〇〇
祝電
九期永野節子、十六期岸田和子、二十期古河喜代、大阪支部竹中つる　花輪　皆実高校、卅九期歳本花東、大原県知事夫人、皆実高校卅九期歳本、シャーリー美容院

昭和31年度 定例総会開催さる

五月晴れの快晴に恵まれた五月二十日、新学されて間のない広島女子短大講堂を会場に本年度の定期総会が開かれた。

母校より新任の木村校長、松尾両先生の御臨席を得、それに加えて終戦後のむつかしい時代を背負われた土橋先生も御出席下さって午時半開会する。

食本理事の司会により次の通り運営された。

開会の辞　理事長挨拶
来賓挨拶
祝電披露
経過報告　主として新聞について　小笠原理事
議長団選出　理事長一任
坂本文男評議員
松島ツタ評議員
同氏に指名
三十年度決算報告　伊藤常任理事
監査報告　新出哲監査
昭和三十一年四月廿七日　厳重監査済
決算審議　異議なく一同承認
三十一年度予算並審議　伊藤理事
予算案通り可決、別表参照
役員改選　伊藤理事
監査、評議員、幹事
評議員は各期二名、皆実各期三名、幹事は各組一名
監査は御通り全期通して三名のこと
異議なく一同承認
○会費の件　吉田理事
親子、兄弟二名以上いる家庭では一人は金額他は半額とする。但し経済が別の場合はこの限りでない。
○老いては子に従えのたとえ通り若い方の活躍を望むと古いおばあさんの発言もあって和やかに討論した。
その他事業計画として創立五十五周年を記念して二梁あき子さん久保妙子・鈴木堺士・服部明良・（卅四）佐々木俊博・宇張前弘・黒崎正文・坂本文男・二井武雄・（卅五）網本哲雄・南部敏・石富康子・青脇志津子。

小笠原理事
大熊理事長
木村校長
土橋前校長
数田前校長その他
小笠原理事

木村新校長挨拶

木村校長

二十四年四月大きく脱皮して皆実高校となったのであります。

私は昭和二十年一月に広島第一県女に奉職し半年後に原爆に逢い多くの職員生徒を失う悲惨な目にあい憮然に生き残って県女の解散ながら並願ある広島第一県女の解散に共に出入高校に去ったのでありますが、この度再びこの地に帰って想無量のものがあります。勿論皆実高校は新しい学制のもとに発足したので旧第一県女の後身というわけではないが、たまたま前上地出身生徒を以て同窓会は皆実有朋会として、この両者が連繋をもつようになったとは誠に結構なことであります。東洋西洋の歴史を通読して見ますと人類の文化は幾多の波らんを超えながら常に一つの方向を指しているようです。

そしてその方向とは若い人の生き方、若い人の物を考える方向を指しているようです。之は誰い も悪いもない人類歴史の必然であります。六十年の歴史に輝く同窓会がその古さのために沈滞することなく絶えず若い生命に躍動しながら生々発展して行くことを祈りながら、皆実高校の校長としての発展にサービスをさせて戴きたいと念願するものであります。

広島皆実高等学校長　木村二郎

新評議員決る

殆んどが再選

去る五月二十日の今年度定例総会で改選された新評議員の氏名は次の通り（敬称略）

（一）上野キク・（二）横山カツ（三）尾木幾・（四）川村トヨ・（五）青川ミエ・（六）出淵アキ（七）黒田シヅエ・（八）東儀万子・（九）加内栄・（一〇）坂本（一一）松島ツタ・（一二）大木ツル子（一四）田口キヨ子・（一五）新藤サト子・（一六）楠木タマヨ・（一七）熊野マサコ・（一八）最上トメヨ・（一九）熊平アサ子・（二〇）梁月松子・（二一）沢宮士子・（二二）田原光代・（二三）岡ヤス子・（二四）研井花子・（二五）長屋治枝・（二六）中川千代・（二七）陰山淳美子・（二八）末長キヨ子・（二九）北十枝子・（三〇）小田時子・（三一）小林淑子・（三二）村上嘉美子（三三）発米幾江・（三五）升元君子・（三六）仮井君子・（三七）田中ヨシエ・（三八）中野美彌子・（三九）早沢信枝・（四〇）石原舜恵子（四一）鈴木幸子・（四二・欠）（四三）武田満枝・（四四）林美籠・（四五）人見八代子・（四六）益埜子・（四七）馬本保長・浅野温生・坂本節子・（四一）横田寅治・前田操子・馬船貞智子・岩崎チヨ子・（四三）村木柾夫・下久保妙子・鈴木堺士・黒崎前弘・（四四）佐々木俊博・宇張前弘・黒崎正文・坂本文男・二井武雄・（四五）網本哲雄・南部敏・石富康子・青脇志津子。

主張

新しき道を歩め

今年の総会を集りがよくなかったようである。同窓会も本会の如く大きな組織になると総会といっても会員全員の参加という理想は実現されずやくもないであろうが それでもなお、総会の名のもとに催される行事を通じて只一度の大きな会合が余りにも貧弱すぎるのではなかろうか。

勿論、総会への集りのよしあしということが直接に同窓会の生命を決定するものではないかも知れぬしかしながら、この例年の総会が如何なる程度において成功をおさめつつあるかということがその同窓会のその時々の動きを示す一ツの指標とみられてよいのではなかろうか。

かく考える時、有朋会の実態というものが一応の形を整えて来たとはいえ今日においてなお、その弱さが指摘されてよいと思われる。

何よりも先ず旧来からの古い型にはまった同窓会というものを考えなおしてみる必要はないであろうか。年に一度の定例総会、そして年に数回の役員会、或いは父強いて言えば母校に対する物的、精神的援助（むしろ現段階では我々の側が援助をうけているのかも知れない）が定款にうたわれた「会員相互の扶助親睦及び母校との緊密な連絡を図る」という目的の全内容であろうか、各支部の動きさえも今日においてあるが如き姿では同期生、同級生によるクラス会程度の意味しか有せず（それでもいいわけであるが）何ら有朋会という一ツの組織内での動きではなく、それとは異った別個の組織における活動の如き感を抱かせるのは何ゆえであるか。

会の隆盛発展を願うならば会員の会に対する無自覚を慨嘆する前に会の役員たる者自らが自己を反省し本会のあり方、進むべき道について、より徹底せる研究を要すると思う。最小限の活動、恒常的神的援助（むしろ現段階では我々の側が援助をうけているのかも知れない）が定款にうたわれた「会員相互の扶助親睦及び母校との緊密な連絡を図る」という目的の全内容であろうか、各支部の動きさえも今日においてあるが如き姿では同期生、同級生によるクラス会程度の意味しか有せず（それでもいいわけであるが）何ら有朋会という一ツの組織内での動きではなく、それとは異った別個の組織における活動の如き感を抱かせるのは何ゆえであるか。

会の隆盛発展を願うならば会員の会に対する無自覚を慨嘆する前に会の役員たる者自らが自己を反省し本会のあり方、進むべき道について、より徹底せる研究を要すると思う。最小限の活動、恒常的神的援助（むしろ現段階では我々の側が援助をうけているのかも知れない）が定款にうたわれた「会員相互の扶助親睦及び母校との緊密な連絡を図る」という目的の全内容であろうか、各支部の動きさえも今日においてあるが如き姿では同期生、同級生によるクラス会程度の意味しか有せず（それでもいいわけであるが）何ら有朋会という一ツの組織内での動きではなく、それとは異った別個の組織における活動の如き感を抱かせるのは何ゆえであるか。

有朋会が新発足して日いまだ浅しとひとくちに言い切ってしまえないものがあるのではなかろうか。

新発足して以来、総会の名のもとに催される行事を通じて只一度の大きな会合が余りにも貧弱すぎるのではなかろうか。

勿論、総会への集りのよしあしということが直接に同窓会の生命を決定するものではないかも知れぬしかしながら、この例年の総会が如何なる程度において成功をおさめつつあるかということがその同窓会のその時々の動きを示す一ツの指標とみられてよいのではなかろうか。

かく考える時、有朋会の実態というものが一応の形を整えて来たとはいえ今日においてなお、その弱さが指摘されてよいと思われる。

何よりも先ず旧来からの古い型にはまった同窓会というものを考えなおしてみる必要はないであろうか。年に一度の定例総会、そして年に数回の役員会、或いは父強いて言えば母校に対する物的、精神的援助（むしろ現段階では我々の側が援助をうけているのかも知れない）が定款にうたわれた「会員相互の扶助親睦及び母校との緊密な連絡を図る」という目的の全内容であろうか、各支部の動きさえも今日においてあるが如き姿では同期生、同級生によるクラス会程度の意味しか有せず（それでもいいわけであるが）何ら有朋会という一ツの組織内での動きではなく、それとは異った別個の組織における活動の如き感を抱かせるのは何ゆえであるか。

会の隆盛発展を願うならば会員の会に対する無自覚を慨嘆する前に会の役員たる者自らが自己を反

本部事務所を新設

長らく母校本館内校長室の前で間借住いをして居りました本会事務所がこの程母校内本館前に新設されました。

母校の体育室並に図書室が完成した暁は放送室が体育室内に移転したため元の放送室が学校には不要となられました。木村校長先生より「会員の皆様のお世話をさせて頂いて居ります。

皆様の御協力により此の建物がより大きくなる日を期待しています

広さ　五坪
総工費　一一〇、〇〇〇円

○時期的に若い人達の出席が悪いとの提案

○新聞に対する希望
体験談を匿名で発表したら

○会費の件
親子、兄弟二名以上いる家庭では一人は金額他は半額とする。

○老いては子に従えのたとえ通り若い方の活躍を望むと古いおばあさんの発言もあって和やかに討論した。

その他事業計画として創立五十五周年を記念して二梁あき子さん久保妙子・鈴木堺士・服部明良・（卅四）佐々木俊博・宇張前弘・黒崎正文・坂本文男・二井武雄・（卅五）網本哲雄・南部敏・石富康子・青脇志津子。

（東京その他学校に行っている人は帰られない）

八月か九月頃にしてはどうか、結局八月下旬に決定、期日は理事に一任

総会の通知は全国各支部にも出すこと、連絡が悪かった。

若い人は「総会はとしよりばかりの集りだ」と言って若い人は来ない。

○新聞に対する希望
体験談を匿名で発表したら

○会費の件
親子、兄弟二名以上いる家庭で

松島の牛乳
広島市旭町1714
電話南(4)1942

昭和三十一年度予算

昭和三十一年度予算は定例総会に於て次の通り可決された。

前年度より繰越　八〇、〇〇〇
会費　一、八〇〇、〇〇〇
入会金　五〇、〇〇〇
預金利子　一、〇〇〇
雑附　五〇〇
総計　三一、九〇六

一、支出の部
事務費　五、〇〇〇
人件費　八〇、〇〇〇
会議費　一〇、〇〇〇
新聞部費　九〇、〇〇〇
通信及交通費　六、〇〇〇
接待費　五、〇〇〇
備品及修理費　三、〇〇〇
慰弔費　三、〇〇〇
謝礼費　三、〇〇〇
新卒者への記念品代　三〇、〇〇〇
積立金　二〇、〇〇〇
雑費　一〇、〇〇〇
予備費　一七、九〇六
総計　三一、九〇六

本部よりのお願

春が足もとに近づいていま皆様お元気でいらっしゃいます。

同窓会も会員皆様の御協力依って、今後の発展を支配します。会費をお納めいただかずまだたくさんに御協力いまして、新しく御協力いただきますお願いして下さいます。

毎度お願いいたしておりますが、御送金、御通信の本部の方でわかっていても、必ず旧姓と、期名とれなく御記入下さいます。

御送金には会費、又は各種記いただき度くお願い申します。

昭和三十年度決

昭和三十年度（昭和三十年度日より昭和三十一年三月三で）会計決算報告は次の通

一、収入の部
前年度より繰越　二九、一
会費　二八、一
入会金（二五四名）　五〇、
前年度卒業生入会金（六　一二、
名簿代　一四〇、
預金利子
其の他
総会々員券売上　三、
総計　四五四、

一、支出の部
事務費　三、
人件費　六一、
会議費　四、
新聞部費　八四、
通信及交通費　三、
接待費　三、
備品費　一、
慰弔費　四四、
燃料費
其の他修理手数料
名簿作成費　三三七、
総会費　二九、
支出合計　三七四、
次年度繰越　八〇、
総計　四五四、